

## Member

教授 水上 元  
准教授 牧野 利明  
助教 寺坂 和祥  
客員教授 小野 孝彦  
学生 博士課程 2人 修士課程 7人  
学部生 17人 (うち6年制 14人)

## 連絡先

TEL : 052-836-3415

FAX : 052-836-3415

HP: <http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/hp/syg/index.html>

## 私たちが教えていること

生薬学分野は、名市大薬学部における天然薬物に関する講義と実習を一手に引き受けています。最近では、薬用植物や漢方薬に興味を持って入学してくる学生が増えていて、それだけに教員がしっかりと教えなくてはと、日々努力の毎日です。

**1. 薬用植物学**：2年生前期、6年制(薬学科)・4年制(生命薬科学科)の両学科必修の科目です。「人参は根、竹節人参は根茎」などと丸暗記しても、実は根と根茎の違いが判らない、ということが無いようにすることが目的です。科目の名称から最初はあまり面白くなさそうと想像する学生も多いようですが、「サツマイモ(の可食部)は根、ジャガイモは茎、タマネギは葉」とか「ミカン(は毛を)食べている」なんて、20年近く生きてきてはじめて知ったという学生も多く、それなりに積極的に受講しているようです。

**2. 生薬学Ⅰと生薬学Ⅱ**：生薬学Ⅰは生薬の総論と各論を扱っています。少数の生薬にまとを絞って(学生はそれでも多すぎると文句を言いますか)、生薬について学生に興味を持たせることと生薬の本質を理解させることに努めています。2年生後期に両学科必修として開講しています。生薬学Ⅱでは天然物化学を教えています。薬用植物学や生薬学Ⅰとのあまりにギャップに愕然とする学生も多いようで、生薬関係の講義では学生による評価が最も低いのが悩みです。3年生前期の開講で、薬学科必修、生命薬科学科は選択です。

## 3. 漢方薬物治療学(臨床薬学Ⅴ)

6年制教育の実施に伴って新たに開設された科目で、4年制前期の薬学科の学生が対象です。漢方薬について、漢方医学的な考え方、医薬品情報、エビデンスだけでなく、薬局製剤として薬剤師が漢方相



談を行うときの症例検討なども行っています。多くの学生が高い関心を示しながら受講しています。

## 4. 生薬学実習

生薬の鑑別や漢方湯液の調製など、出来るだけ実際の生薬に触れることが出来るような実習をと工夫しながらやっています。他の実習とは一味違うと、興味を持つ学生も多いようです。

## 私たちが研究していること

生薬学は天然薬物に関する総合科学ですので、天然薬物を対象にして幅広いアプローチをするようにしています。というわけで、植物有用物質のバイオ生産から、漢方薬の有用性の科学的検証まで、いろいろな研究をしています。詳しくは研究室のホームページをご覧ください。

## 薬用植物園も担当しています

薬学研究科の田辺通キャンパスにある薬用植物園の管理・運営も生薬学分野が担当しています。桜の名所である山崎川に沿って約 3000 m<sup>2</sup>の区画に 400 種類程度の薬用植物種を栽培しています。薬用植物学の講義に欠かせない場であると同時に、市民の方々の関心も非常に高く、年 4 日間の一般公開のほかにグループ見学や近隣の小学校の授業などで年間 1000 名以上の方々に来園され、大学と地域社会の接点として重要な役割を果たしています。読者の皆様の見学も歓迎します(申し込み方法はホームページに)。

## 研究室からのメッセージ

生薬や漢方薬にアフィニティーの高い人材を病院、薬局をはじめ様々な薬学の現場に送り出したいと願っています。ご支援をお願いします。